



なかがめ  
**仲亀 恭平**  
(つなぐ)

教 育  
保健福祉

クラスに1～2人の現実…  
不登校児童への支援体制を伺う



問 現状を伺う。

教育長 約26人に1人が不登校の状態。(R6)

【不登校生徒数】	不登校	発生率	※答弁を基に作成
小学校	165人	2.7%	
中学校	202人	6.0%	
合計	367人	3.9%	

#### 【相談件数】

相談は全体で2,373件。

青少年相談センターでは639件。

(電話・メール：401件／来所面接：238件)

問 A.I.\*1 悩み相談は有効か？

教育長 A.I.チャットボット等の利点はある。

■匿名性の確保による心理的な負担の軽減。

■教職員の業務負担の軽減。



つじむら  
**辻村 岳瑠**  
(明和)

環 境  
保健福祉

クマの危険性を見極め、地域活動を止めない道を示す

問 以前の議会答弁では、クマとの共存という考え方を示していたが、現状を状況を踏まえて、考え方には変化はあるか。

部長 共存が一番理想的であるが、人命に危険が及ぶ恐れがある現状から、駆除を優先すべきと考えている。

問 局面は変わった。法改正により、緊急銃猟の従事にかかる獣友会、職員の安全性、体制づくりはどうか。

部長 緊急銃猟マニュアルの作成、訓練を実施した。滞りなく対応できるよう訓練を重ねる。

意見 いち早い地域住民の不安解消や地域活動の維持、獣友会の皆様への配慮を引き続きお願いする。

問 多様な相談窓口とA.I.・ICT\*2の活用状況。

教育長 仮想空間を活用した学びの場を提供。

■バーチャルスクール\*3：市内から10人ほどが登録し、出席扱いが認められるケースもある。

#### バーチャルスクールも出席扱い

■相談アプリ「リーバー」：児童生徒が1人1台端末を通じ、心の健康観察を行える仕組み。

問 保護者同士が悩みを共有する「懇談会」が必要だと考える。

部長 保護者支援団体情報を「一覧表」にまとめ、教育委員会と共有する取組を進めている。

教育長 保護者が適切な相談チャンネルにつながれるよう支援していく。

問 不登校から「ひきこもり」といった福祉課題へ繋がるのではないか…懸念をしている。

部長 不登校が派生して問題が拡大していくリスクは認識している。保健福祉と教育部門の連携を構築するため「こども・若者支援推進本部」を組織した。年3～4回会議開催。

総合教育会議  
「議事録」



#### 子ども会助成金の見直しについて

問 現行の「30人以上」では申請が困難である。地域の実情に応じて、より柔軟な制度への再検討をお願いする。

また、「子ども会」と「寄り合い処」異なる拠点をつなぐ福祉施策について見解を伺う。

市長 子ども会へは、市としてもよく相談し、補助金を出し活性化できるよう前向きに進めていきたい。



寄り合い処は、誰もが気軽に参加できる場所であり、それが子ども会の拠点であっても良い。こどもたちが学校帰りに寄り合い処に寄ることで、こどもは学び、お年寄りに癒しが生まれる。寄り合い処の助成金を増やしていくことも検討している。こどもと一緒にあって楽しむ寄り合い処として、こうした企画にできれば非常に良いと思っている。

部長 寄り合い処は、従来介護保険の財源であったが、強化していく部分については、市の一般財源を充てて取り組む。